

わかやま母親通信

第103号 2023年4月15日発行

発行 和歌山県母親大会連絡会 事務局 和歌山市小松原通3の20 和歌山県教育会館内
和教組 TEL073-423-2261 FAX073-436-3243 母連メール：w_haharen@wkn.or.jp

生命を生み出す母親は
生命を育て
生命を守ることをのぞみます

HP 和歌山県母親大会

第67回県母親大会 体験・見学分科会の紹介

今県大会の**体験分科会**と**2か所の見学分科会**について紹介しましょう。

コロナ感染流行がまだ終息していない状況での県大会ですので、いつもお借りしていた学校などを借りることができません。開催会場に制約がある中での分科会づくりとして、地域の町内会館をお借りして、「⑧健康体操 100年時代を元気に過ごそう」を設定しました。楽しく体を動かしましょう。

見学分科会は2か所を設定しています。「⑨鳥の巣平和公園見学」は、内之浦漁港付近にある戦跡です。人間の命を軽視した無謀・理不尽な戦略の残骸を残そうとNPO法人を立ち上げ、保存に努めています。視察してきてください。「⑩京大水族館&南方熊楠記念館見学」は親子で参加できます。楽しんできてください。

⑧⑨は、Big・Uから遠くはありませんが、徒歩で行くには距離がありますし、⑩は白浜町ですので、いずれも、バスに乗って移動していただくことになります。

人数の把握が必要ですので、**事前申込**とします。**申込受付は、5月9日(火)**からです。25名、25組の定員がいっぱいになれば受付を終了します。各郡市母連へ問い合わせてください。或いは、HP「和歌山県母親大会」に載せている申込用紙をダウンロードしてお使いいただくこともできます。申し込んでください。

明日へ

女性は動く 少しコロナの感染状況が落ち着いて、3年ぶりに近畿ブロック母親運動学習会が滋賀県彦根市で開催された。そして、国際女性デーも開催した。和歌山市では、昨年秋から延期してきた母親大会と合体する形で、3月4日土曜日に開かれた。昨年は中止したから2年ぶりである。3月8日には、新婦人県本部が呼びかける形で、和歌山城ホール前スタンディングアピールを開催した。15人がプラスタ一を持ちずらりと並ぶと少し人目を引いたかな。中央集会の平和とジェンダー平等の実現を訴える講演が、オンラインでも視聴できて良かった。翌9日には、年金者組合の女性部で平和学習をした(2Pに資料を掲載)。参加者全員が自分の思いを口にし、

「今のうちに言うことは言って行動しよう。選挙も大事やで一」と盛り上がった。

人権と 平和大事と 花ミモザ
春めくや 集ひて元気 分かち合ひ

T.U.



「明日へ」に寄稿していただいたT.U.さん提供の新聞記事です。

広島出身 首相に意見しちやる

*朝日新聞「声」欄 2022 (R4) / 12 / 29

無職 H K

(埼玉県 70)

岸田文雄君、広島出身の先輩として意見しちやるけえ、まあ聞きんさい。1年前は元首相の安倍晋三さんと違うて、平和路線で行ってくれると期待しとつたのに、がっかりしとるよ。防衛費を増やすための増税に賛成する人が何人おるか、広島で聞いてみんさい。毎年8月6日8時15分には黙祷してきたじゃないか。軍縮への期待があつたのに残念じゃ。

防衛費の国内総生産(GDP)比2%は米国が望んでいたことらしいのう。日本の防衛費は世界第9位で2%にすると一気に米国、中国に次

ぐ第3位になるそうじゃ。これほどの防衛費がほんまに必要な。「国民

生活を守るため、将来のため、今は増額はむりじゃ」と大統領のバイデンさんを説得してみんさい。

武器を買う金があるんなら、外交や人権支援に使いんさい。増税するなら政党交付金の廃止や議員の削減など、まずは国会議員に関わる費用を削減しんさいよ。それこそが未来に責任を持つ、ほんまの政治家よ。

どうしても防衛費の増額をやめられんのかと思ったら、これを争点にして総選挙をやりんさい。国民の声でとめちやるけえ。それが広島出身の私たちの務めじゃと思つとるよ。



第68回日本母親大会 in 山口(2023.11.25 全体会 ~ 28 分科会)

2月から実行委員会が開始され、2月23日の第2回実行委員会では、設定する分科会や2日間の日程などについて話し合われました。すでに、全体会講師が決定しています。そして、全体会はオンライン併用ですが、分科会はリアルのみで開催と決定しました。オンライン設置の大変さ、経費の問題からの判断です。

*全体会記念講演講師 清末愛沙さん(憲法研究者 室蘭工業大学大学院教授)

・山口県出身の方だそうです。

*日程 25日全体会 13:00~16:00

26日分科会 10:00~13:00 その後平和行進・各自で昼食

2024年第69回日本母親大会(9/28-29)は、和歌山県開催です。その事前視察のためにも、ぜひ山口大会へは参加しなければなりません。全体会のサテライト会場設置の責任者も必要ですが、手分けしてぜひ現地へも参加しましょうね。

「わかやま母親通信」102号に掲載した「無意識の思い込みチェック」をやってみましたか？…少し「解説」しましょうね。

1 仕事より育児を優先する男性は仕事へのやる気が低い

家事・育児・介護などの家事労働は長い間、私的な領域で行われる無償労働だと思われてきた。仕事を通して収入ややりがいを得る有償労働に就いている男性は、同じ労働であっても収入を得られず、やりがいも感じにくい家事労働を軽く扱うような傾向がないだろうか。家事労働は時間も労力もかかる立派な「労働」であり、安心して快適な生活を送る上で欠かせない仕事である。男性も生活を担う共同経営者として、その役割と責任をしっかりと果たしていくことが重要である。

2 親戚や地域の会合で食事の準備や配膳をするのは女性の役割だ

「家」制度においては、重要なことを決めるのは男性で、女性はそれに従うことを求められ、下働きをするという上下関係がはっきり存在した。そして、それは地域活動における男女の役割にも反映されてきた。地域の慣習やしきたりは昔から続いているため、見直す機会がなく、それが当たり前のように行われていることも多いが、時代に合わなくなったものは思い切って変えていくことも必要ではないだろうか。

3 女性には理系の進路(学校・職業)は向いていない

理系における女性比率は2割程度と極めて低い状態にある。要因としては、「周囲の女子の進学動向」「親の意向」「身近なロールモデルの不在」などが指摘されているが、「向いていない」という周囲の決めつけや価値観の押し付けによって、自分の夢をあきらめたり、想いを飲み込んでしまったりする女性もいるのではないだろうか。特に、子ども時代の周囲の働きかけはその後の進路に大きな影響を与えることになる。「女の子だから」「女の子のくせに」という無意識の思い込みが与える影響を改めて認識し、勇気づけ、励ましの言葉をかけることを意識したい。

4 男性は人前で泣くべきではない

5 女性には女性らしい感性があるものだ

9 女性は感情的になりやすい

女性と男性の違いを語るとき、「女性は感情的、男性は論理的」「女性はすぐ泣く、男性は泣くべきでない」といったことがよく言われる。女性と男性は違う性であり、多くの違いがあるが、性別によって生き方や行動を制限されたり、決めつけられたり、評価されたりするものではない。まして、「女性の感性」と一括りにして、本人の能力や資質ではなく、「女性」ということだけで評価するのはやめてほしい。「〇〇さんの感性」として注目するようにしていきたい。

* 6、7、8、10、11、12 についての解説は、紙面の関係で別の機会になりました。ご了承ください。(5/13の104号に掲載します。)

「第 69 回日本母親大会 in 和歌山」の成功に向けて②

◎和歌山県母親大会のこれまでの歩みと新たな決意 2/3回目 2023.2.18

次回にもこの取り組み方を生かすこととし、最初の実行委員会で『時代に合った』『時代に求められる』母親大会とは」を提起する形で取り組みを始めた。

2015 年第 60 回県大会 in 太地町

東牟婁郡市は、第 1 回県大会 (2,200 人参加。内現地 1,000 名) を始めた地であるが、10 回大会を開催して以降、遠隔地ということもあって県大会開催から遠ざかっていたが、第 60 回を記念して、50 年ぶりに県大会を開催する意思統一ができた。この地にも、特徴的な地域の運動や活動が活発なことを知って驚いたが、さらに太地町の行政あげての応援があって、「時代に合った」母親大会は大成功だった。

2016 年第 61 回県大会 in 海南市

海草の女性たちは、「イベント上手」が定評で、やる気が爆発するように、会の担い手を集め口づて人づての宣伝をして 800 名以上を集めた。全体会講師が浜矩子さんだったこともあるが、分科会でも、親子リズム分科会で体育館いっぱいの親子を集めていた。

2017 年第 62 回県大会 in 紀の川市

60 回・61 回大会に比べると、少し落ち着いた感じの大会であったが、加盟団体が多様な郡市なので、バラエティに富む分科会が 20 も作られることになった。
(教育委員会が教室借用につき有料を言い出し、1 教室〇時間につき、いくらかを払うことになったが…。)

2018 年第 63 回 in 日高川町

学校の教職員が中心に県大会に取り組んだ。プラス新婦人や地域の人たちの力で、利用者を中心とした運営の介護施設やライダーたちで作る東日本などの被災地救援隊などとつながり、「地域に根ざした」分科会づくりができていた。

この間の県大会の取組み方を経て、「時代に合った」「時代に求められる」母親大会とは、「地域に根ざした」「だれもが元気になる」母親大会であることが確信となり、この年から、それを、大会コンセプトにして取り組むこととなった。 (7/1 の 105 号に続く)

(連絡事項) 4月27日(木)～28日(金)、東京から日本母親事務局の3人が和歌山にやってきます。県役員との打ち合わせ、全体会場の下見、協力団体へのご挨拶、そして、全県代表者拡大会議を開催し、最初の顔合わせをします。